

ICT 端末を用いて作成した資料を基に

選択・判断したことを説明し合う学習

第6学年

戦国の世から天下統一へ

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 学んだことを活用して、課題に対して選択・判断することができました。
- ICT 端末を活用して作成した資料を提示しながら、課題に対して考え、選択・判断したことを説明することができました。

協働学習支援ツールの活用の効果



課題に対する立場を明らかにし、それぞれの立場を共有する。

- ・単元での学びを根拠にして、「信長と秀吉の天下統一に果たした役割は、どちらが大きかったか」について判断する。
 - ・協働学習支援ツールのモニタリング機能によってそれぞれの立場を共有し、色別に表示された仲間の立場を捉える。
- ※本実践では、MetaMoji Classroom を使用した。

教師の指導のポイント

- 選択・判断する際の着目する視点として、「戦い方」「政治」「外国との関わり」という3つを示し、信長と秀吉を比較させることで、社会的な見方・考え方を働かせることができるようにする。
- 周りの仲間がどの立場なのか視覚的に捉えさせることで、自分と同じ考えや異なる考えをもつ仲間の存在に気付かせ、交流への意欲へとつなげる。

ICT 端末を用いて、根拠を示しながら自分の考えを説明し合う活動



ICT 端末を用いて作成した根拠を基に、仲間を選択・判断したことを説明する。

- ・「信長と秀吉の天下統一に果たした役割は、どちらが大きかったのか」について、自分が判断した理由を ICT 端末にまとめる。
- ・自分のまとめた資料を ICT 端末で共有し、根拠として示しながら、グループの仲間に考えを説明する。



グループ交流を通して深まった考えや自分の考えの変容を交流し合う。

- ・グループの仲間の考えを聞いて深まった自分の考えを学級全体で交流し合う。
- ・交流後の自分の立場を協働学習支援ツールのモニタリング機能を使って共有し、学習後の変容を視覚的に捉える。

教師の指導のポイント

- 学習したことの何を根拠に選択・判断したのか、ICT 端末を使って示しながら表現するように促すことで、言語活動の充実を図る。
- グループ交流後の考えの変容を学級全体で交流し合うことで、考えの深まりや変容など、対話的な学びのよさに気付くことができるようにする。